

# 報告書〔5〕 分析結果及びフローシート

## 5 ノニルフェノール

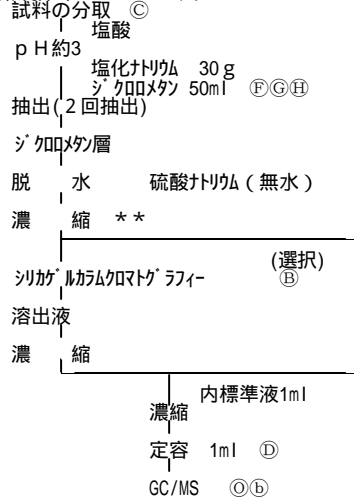
	整理番号	*	*	*	国際的な認証の取得	1. ISO 9001~9003 2. ISO 14001 3. ISO/IEC 17025 (ガイド25) 4. なし
分析実施機関名					分析主担当者の実績(検体数)	③
分析主担当者名	分析主担当者の経験年数		②	年	検体	

注1) 分析結果 (µg/l)	標準偏差 (µg/l)	測定回数 (回)
④	⑤	⑥

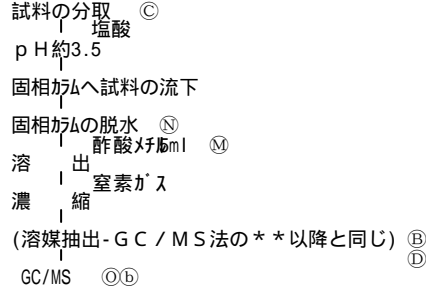
分析開始日	⑦	月	日
分析終了日	⑧	月	日

注1) 有効数字3桁で記入する。なお、2回以上の測定を行った場合は、平均値を記入する。また、実施要領5(1)の希釈方法に従って調製した分析試料中の濃度を記入する。  
 なお、一旦受領した結果については、訂正があっても受け付けませんので、記入間違いや単位間違い等に注意してください。

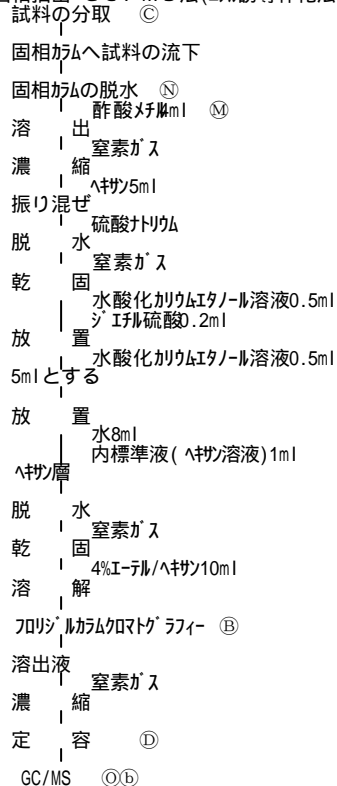
< 溶媒抽出-GC/MS法 >



< 固相抽出-GC/MS法 >



< 固相抽出-GC/MS法(シリカ誘導体化法) >



< 分析法等 >

分析法	① 1. 溶媒抽出-GC/MS 2. 固相抽出-GC/MS 3. 溶媒抽出-シリカ誘導体化-GC/MS 4. 固相抽出-シリカ誘導体化-GC/MS 5. 溶媒抽出-LC/MS 6. 固相抽出-LC/MS 7. 溶媒抽出-HPLC 8. 固相抽出-HPLC 5. その他( )
クリーンアップ	② 1. フロリシロカラムマトグラフィー 2. シリカカラムマトグラフィー 3. 実施しない
試料量	③ ( ) ml
最終定容量	④ ( ) ml
濃縮方法	⑤ 1. KD 2. ロータリーエバポレーター 3. その他( )

< 溶媒抽出条件 >

抽出溶媒の種類	⑥ 1. ジクロロメタン 2. その他( )
抽出回数	⑦ ( ) 回
溶媒量	⑧ ( ) ml / 回

< 固相抽出条件 >

固相の種類	① 1. カラム型 2. ディスク型
充てん剤 種類 粒径 ① ( ) µm ② ( ) g	② 1. ポリスリレン系 2. ポリメタクリレート系 3. ODS系 4. その他( )
溶出溶媒	③ 1. 酢酸メチル 2. アセトリル 3. その他( )
脱水方法	④ 1. 遠心分離 2. 吸引 3. その他( )

< 分析条件 >

注入量	⑤ ( ) µl
機器型式(GC) 機器型式(MS) 測定質量数 GC/MS 装置型式 ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	メーカー( ) 型式( ) メーカー( ) 型式( ) ⑥ ( ) ⑦ 1. 単集束 2. 二重集束 3. 四重極 4. イオントラップ 5. その他 ⑧ 1. SIM法 2. スキャン法
カラム型式 ① ( ) mm 長さ( ) m 膜厚( ) µm	メーカー( ) 型式( )
カラム昇温条件	初期温度保持 分   温度 度 ~ 分   温度 度 ~ 分   最終温度保持 分
キャリアガス条件	1. N <sub>2</sub> 2. He 3. その他 ( ) ml / 分
試料注入部温度 ② ( ) 試料注入方法	1. スプリット 2. スプリットレス 3. コールドオンカラム

< 検量線の作成等 >

定量方法	① 1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法 内標準物質 種類名 ① 1. ナフタレン-d <sub>8</sub> 2. フェナントレン-d <sub>10</sub> 3. アセナフテン-d <sub>10</sub> 4. フルオランテン-d <sub>10</sub> 5. その他( ) 添加量 ② ( ) ng
試薬(標準原液)	③ 1. 購入 2. 自作 1. の場合メーカー( )
検量線の作成	作成点数 ④ ( ) 範囲 ⑤ ( ) ~ ( ) 単位 ⑥ 1. ng(注入量) 2. µg/l(濃度) 最高濃度のピーク高又は指示値 ⑦ ( )
試料溶液	ピーク高又は指示値 ⑧ ( )
空試験 注2)	ピーク高又は指示値 ⑨ ( )
検出下限値	⑩ ( ) µg/l

注2) 水について、試料と同様に操作する。  
 < 分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点 >

試料溶液の調製について	-----
測定方法について	-----
分析全般について	-----

